

作成日：令和 7 年 9 月 27 日

J N 共同事業体作成

令和 7 年度第 1 回利用者懇談会議事録

令和 7 年度 第 1 回 生涯学習センター利用者懇談会
日時： 令和 7 年 8 月 18 日（月） 19 時 00 分～21 時 00 分
場所： 東久留米市立生涯学習センター 学習室 1
出席者： 利用者懇談会委員 【学識経験者】2 名 【利用者代表】3 名 【指定管理者】施設長、設備管理責任者 【関係行政機関職員】生涯学習課長 事務局 【指定管理者】副施設長 【関係行政機関職員】生涯学習課生涯学習係長 8 名の委員の内 8 名が出席、過半数の出席にて会議を開催 欠席者：なし 開催の目的 指定管理者が管理運営を行う東久留米市立生涯学習センターの指定管理期間中の運営を適正かつ円滑に行うために、市民のご意見等を伺う場として利用者懇談会を設置する。
議題： (施設長) 「生涯学習センター利用者懇談会設置要綱」には「第 3 条 懇談会は、委員 10 人以内で構成する。」とあり、現在委員の方は合計 8 名。 本日は、8 名中 8 名の委員にご出席いただき、「生涯学習センター利用者懇談会設置要綱」第 6 条に定める「過半数」に達していることをご報告する。 これまで同様当懇談会は原則として公開扱いとなり、事前に傍聴希望者へのご案内を HP に掲載している。傍聴希望者がいる場合は後ほど入室していただく。（→傍聴者なし） 今回の議事録については前回同様、後日委員の皆様にご確認いただいた後、センター HP で公開する。 それでは会を進めるにあたり、初めに本日用意した資料を確認させていただく。 〈配布資料〉 1. 次第 2. 資料 1 令和 6 年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計 3. 資料 2 令和 6 年度 東久留米市立生涯学習生涯学習センター事業一覧【実績報告】 4. 資料 3 令和 7 年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計 5. 資料 4 令和 7 年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【報告及び今後の予定】 6. 資料 5 令和 7 年度 施設維持管理報告【実績並びに今後の予定】 7. 資料 6 東久留米市立生涯学習センター利用者懇談会委員名簿 1. 開会（進行役 施設長） それでは次第に沿って進めさせていただく。次第の 1～4 までの進行を私のほうで務めさせていただく。 2. 市担当者紹介（生涯学習課より自己紹介と挨拶）及び委員自己紹介 3. 事務局紹介（生涯学習係長、副施設長より自己紹介と挨拶） 4. 会長挨拶 この会が始まって十年ぐらいになりますが、これまでは副会長という立場でしたが、今回、ご指名により会長となった。前会長のいろいろな知識や経験を非常に私も頼りにしているので、今後ともよろしくお願ひしたい。また、この利用者懇談会は、東久留米の社会教育や公民会議として大きな役割を果たしている。実りある機会にしたいと思っているので、皆様、お力をお貸しいただきたい。どうぞよろしくお願いしたい。

5. 報告（進行役 会長）

次第に沿って、令和 6 年度事業実績「運営・自主事業」に関して施設長より、「施設維持管理報告」を設備管理責任者に報告をお願いする。

（施設長）

【資料 1】令和 6 年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計

前回、開催したの利用者懇談会の時点では未反映の 3 月の実績を反映した。

全体の利用については、前年比で、利用件数が 97%、利用人数が 87%であった。周辺施設に大規模改装工事等があり、一時的に当施設を利用していたが、工事の完了とともにそのような特需が減少した。また、コロナ後にどんどん社会学習やっこという復興ムードについても、ある程度落ち着いてきた。平常ベースの利用状況に移行したと考えている。

□月曜日の利用者数について

公民館時代は、毎週、月曜が休みだったが、指定管理となった以降、休館日が月 1 回となったためその推移をみている。他の月に比べ、1 月の利用者数シェアが高くなっている特徴がある。月曜が祝日になることも影響しているとみられる。

□午後の利用者数について

午後合計の件数で 3,572 件となり、令和 5 年比で 31 件のマイナスとなった。午前需要が圧倒的に多いが、夜間利用の方が午後に移行するなど増減については各団体のご都合を伺いながら誘導していきたい。

□生涯学習センター利用実績

特に 3 月はとても利用が多かった月であり、件数が 763 件、利用人数が 9,595 名となった。

考察としては、平常ベースの転換点になるのではと考えている。課題としては、特に月曜日と夜間の低調がまだまだあるため、この利用拡大のための促進策が課題と考えている。

実際に料理室などは、夜間に定着した利用団体もあるため、数字として結果がでるよう、今後も様子を見ていく。

【資料 2】令和 6 年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【実績報告】

センター全体として、前回実施のイベント「まろにえ祭り」を 7 月に実施。その他、ホール公演では、今年度も引き続き実施している「カルテットの昭和歌謡」や「ぴよぴよコンサート」などがあるが、前回の資料ではなかった「まろにえサークルフェスタ」を中心に説明する。

「まろにえサークルフェスタ」

3 月 20 日の祝日に実施。やりたいこと探し、生きがい探し、仲間づくりをしたい個人の方とサークルをつなぐリアルマッチングの場として、2 回目の開催。参加者の士気も非常に高く、ミーティングにて目標を作り、主体的に参加者が決め、取り組まれた事業である。第 2 回のテーマは「繋がる広がる地元でワクワク体験」ということで、参加者ミーティングでのアイデア出しによって決定した。参加者ミーティングで振り返りを行った結果、広報、宣伝方法が課題として挙がった。チラシのブラッシュアップや見やすい文字、周知方法はどうかといったことが皆さんからでて、そのまま形にしていっていった。集客については、前年対比 116%増の 565 名ということで、出展団体からは集客に力を入れていきたいとか、サークル仲間だけでなく、地元の近所の人や出展団体の人と知り会えてよかった。年間スケジュールで考えると、12 月に PR 告知も含めて始めていければよかったのでは、と改善に向けてアイデアがたくさん寄せられた。私の私見だが、参加者意識の変容、自分事としての主体性が出てきたと感じられた。一般参加者からも「初めての参加でしたが、ただただ素晴らしかった、別のイベントでとても感動して、その感想を伝えたくて来た。」ということで、出展者や出演者と直接話せたのがよかった、去年よりも賑わっていたという感想が寄せられた。 出場者数：127 名、入場者数：※565 名、無料。（※修正済）

「みんなのクラシックコンサート」

コンサートクラブとの共同企画。令和 6 年の今回が 17 回目の実施となり、一部は若手の演奏家による演奏、二部は、東久留米市演奏家協会メンバーによる演奏をお楽しみいただいた。注目度の高い竹田悠一郎さんは、まだまだ若いということで、ご自身としてはずっと一部で出たい要望があり、一応、新人枠ということで出演している。参加者からの感想としては、「楽しい時間をありがとうございました。無料でこんなに素晴らしい音楽に触れる機会をいただけるのはありがたい。」「無料なんてもったいない。」とい

う感想があった。また、「ちょっとマニアックな曲が多かったのも、もっと知っている曲があると楽しめたかも。」というお声をいただいた。全席自由席の無料、入場者数は 133 名。

「放課後講座」

子供向けの講座で、3 月は電車のクラフトワークという放課後講座になります。

紙で電車を作って、自分の好きな西武線や JR 武蔵野線など、周辺エリアの親しみのある電車を選んで、西武線に人気があったようだが、夢のある自分なりの電車を作るといって、2 両、3 両と作って、なかなか帰ってくれないくらい、制限時間をいっぱいまで使い楽しんでいた。講座の内容としては、電車の展開図に色を塗ってラミネート加工し、オリジナルの電車を作った。

いつも見ている西武線をイメージした街を走る電車やかっこいい理想の電車など、個性豊かな電車や車両が多かった。感想では「なかなか電車を作ることがないので、楽しかった。」とか、「電車を 3 両も作れてよかった。」「好きなように色を塗ったり、絵を描いたりすることができたので良かった。」という感想を頂いている。

【資料 3】令和 7 年度 東久留米市立生涯学習センター利用統計

令和 7 年度については、4 月～7 月の実績を記載。累計で 34,801 名となっており、ほぼ前年並み。

□月曜日の利用者数について

月曜日の開館日数が累計 13 日、利用者数が 1,592 名、4.6%のシェアとなった。

□午後の利用者数について

対前年では、近隣施設の大規模修繕工事なども終わったためか、落ち着いた推移となっている。

少し少ない状況になっており、なぜ少ないのか調査していきたい。

ただ、夏場にかけて需要が増える傾向にあり、7 月はまさにえ祭りの人数が含まれていることなどを考慮すると、全体として少し控え目な数値であった。また、健康診断会場としての利用や工事によるスポーツセンター利用者などの新規登録が増える傾向があるので、その方々が利用をしやすく継続して利用いただけるような工夫をしていきたい。

□生涯学習センター利用実績

7 月はまさにえ祭りの人数、約 5,800 名があり、これを除外すると、4～6 月は対前年で、ほぼ同様傾向。

【資料 4】令和 7 年度 東久留米市立生涯学習センター事業一覧【報告および今後の予定】

□全館イベント

- ・ まろにえ祭り（7 月 27 日実施済）

□ホール公演

- ・ 親子で楽しむ音楽会マロニエびよびよコンサート（5 月 31 日に実施済み）
- ・ ミュージカル眠れる森の美女（11 月 30 日実施予定）
- ・ 上野康平・三浦一馬デュオコンサート（9 月 28 日実施予定：発売中）
- ・ まろにえ寄席（2 月 15 日実施予定）
- ・ まろにえ★クリスマスコンサート（12 月 20 日実施予定：40 周年記念（竹田悠一郎出演予定））
- ・ 海援隊（2 月 21 日実施予定）
- ・ アウトリーチコンサート（市内の小中学校にて 9 月～3 月の間で実施予定）
- ・ 昭和歌謡コンサート（4 月 11 日・7 月 17 日実施済、10 月 1 日・1 月 30 日実施予定）
- ・ 木山裕策ミニコンサート（3 月 20 日実施予定）
- ・ みんなのクラシックコンサート（3 月実施予定）

□生涯学習事業

- ・ 放課後講座（毎月 1 回開催）
10 月は職場体験を絡めて中学生ティーチャー講座を実施予定
- ・ だれでもアート講座（5 月実施済）
- ・ 防災講座（7 月実施済）
- ・ 夏休み自由研究講座（8 月実施中）
- ・ ダブルダッチワークショップ（8 月実施済）
- ・ 初心者大歓迎！「プログラミング講座」自分だけの魚釣りゲームをつくろう（9 月実施予定）

- ・てくてく散歩自由学園歴史探訪（10 月実施予定）
- ・手作りクリスマス飾り講座（11 月 29 日実施予定）
- ・親子で星空を観察しよう！（1～2 月実施予定）
- ・東久留米から世界を目指す！e スポーツ講座「ゲームで世界大会に挑戦しよう！」（8 月 16 日実施済）
- ・地域アーカイブプロジェクト（昭和 100 年企画「てくてく散歩自由学園歴史探訪」で参加者が撮影した写真をロビーに展示予定。）
- ・まろにえサークル見学会（9 月・3 月実施予定）
- ・サークルフェスタ（3 月 29 日実施予定）

□自主事業実施報告より

- ・放課後講座 5 月実施の「ソルトペイントで絵を描こう」は大人気の講座となった。
- ・親子で楽しむ音楽会マロニエびよびよコンサートは曲のアレンジが良かったとの声があった。
- ・スマホ講座（基本編）、スマホ講座（応用編）は人気の講座となった。社協主催のスマホ講座と開催日程が重なってしまったが、「基本の後の応用編はいかがですか。」などと案内していた。
- ・だれでもアート講座では、インクルーシブといって誰でも参加できる講座を開催。対象年齢に制限を設けない講座を開催した。展覧会も開催し満足度が高かった。
- ・みんなで避難所体験！「防災サバイバル」避難所をつくる体験型講座
こどもの参加者も積極的に活躍し、全般的に好評であった。年間でもっとやるべきだとの声もあった。
- ・まろにえ祭り

40 周年記念、復興支援チャリティイベントとして福島県特別版で実施（今回は福島県の後援を獲得）
ホールの舞台にてステージパフォーマンスを実施。福島県や東久留米市商工会のご協力のもと、地元商店やキッチンカーの出店。参加団体は 58 団体、来場者数は 5,868 名だった。「語り継ぐとにもつながるまちへ」のキャッチフレーズ。まろにえの樹企画の実施。「東日本大震災原子力災害伝承館」から被災の現物を借用でき、企画展の実施が実現。いわき語り部の会からのメッセージ動画の放映や福島の写真展。
来場者アンケートの声は下記のとおり。来場者の心に強く響く学習の場になったと思う。

「お祭りであるが、自然災害としっかり向き合う姿、姿勢を感じられた。」

「東日本大震災を忘れない。というコンセプトがはっきりと感じ取れた、とても良いイベントだった。」

「津波漂流物の展示では、涙もなく涙が出た。」

「何気ない日常が宿る一つ一つのものが、無言で伝えてくる無念さ、翻って、そこから立ち上がっていく、立ち直っていく人々の健気さも感じた。」

義援金：132,948 円東日本大震災と能登半島地震の方に半分ずつ 6 万 6474 円ずつお届けした。

地域の皆様をはじめ、福島県など関係各所のご協力を得て、ひとりもケガ人と病人を出さずに終えることができ、この場を借りて御礼申し上げたい。

- ・ダブルタッチワークショップ及び e スポーツ講座
インターン中の大学生 4 名が参加し講座運営にも携わっていただいた。

【資料 5】令和 6 年度 施設維持管理報告【実績】

□維持管理報告（資料 5）

- ・陶芸窯の電磁ポンプの交換
燃料（油）を送るためのポンプが老朽化していて故障したため交換している。
- ・集会学習室 1、2 系統の室外機冷媒漏れ修理
- ・消火水槽（地下）のウォールタンクの交換
消火水槽に水を溜めて自動で止まるための設備だが、動作不良のため交換している。
- ・けやきの木の剪定工事
正面の中央図書館との間にある一部腐って倒木の恐れがあるため、伐採をしてその周りを剪定した。
- ・LED への交換
駐車場側の防災倉庫側の照明の LED への交換をしている。安定器が不良となり、ランプを交換しても光らない状態になってしまったため交換した。

【同】令和 7 年度 施設維持管理報告【実績並びに今後の予定】

- ・非常用の発電機の消耗品交換

年に一回、消防設備点検で運転をかけるが、運転かけるとかなり温度が上がってしまい、緊急停止してしまう状態となった。エンジンオイルの劣化と、冷やすための冷却水が古くなり、車のエンジン同様に、交換して、非常時も、正常に運転ができるように、メンテナンスする必要がある。

・ 電動式の移動観覧席（ホール）

かなり老朽化が進み、利用者への影響があるため、けがにつながる可能性がある部分のため、9 月もしくは 10 月に修繕予定。

・ 非常放送用設備のバッテリー交換

非常時に正常にアナウンスして避難誘導等ができるようにするためのバッテリーが、劣化している。交換推奨年数は 4 年に 1 回だが、現在、少々過ぎているため、こちらの修繕を予定している。

・ 1 階女子トイレ詰まり除去

5 月に 1 階の女子トイレの左側の系統、大便器の系統に詰まりが発生。協力会社に依頼し、配管の屋外のマスとそのトイレの間ぐらいの配管に根っこが配管を突き破って入り、そこで詰まっていた。

詰まり除去をしているが、今後、また再発する可能性があるが、カメラを入れて調査をしていくことも必要になるが、金額も安いものではなく、加えて修繕ができるかどうか不明。位置によってはできない場合もあるため、様子見し、どれぐらいの頻度で再発するかをみて、修繕できればしていきたいと考えている。

・ 陶芸窯について

陶芸窯の送付機が経年劣化により故障停止。明日（8/19）修繕予定。

・ 自家発電設備 整備作業

エンジンオイルおよびオイルのフィルター交換を予定。

意見・感想

（利用者代表）

・ スマホ講座について

生涯学習センターで最初にスマホ講座を始め、他の施設等で開くきっかけづくりとなったのは大きい。

高齢者はいろいろと忘れがちになる。ただ、基本、あそこに行けばスマホ教室に参加できるという認識は持っていただいていると思う。そんな存在になればよいのではないかな。

・ まろにえ祭りについて

早々にキッチンカーが出店いただいてありがたかった。外からみてキッチンカーなど様子がわかることも重要だと感じた。募金について、参加者の中で大きいお金を集めて、それを有意義に使ってほしいと贈ることができるのも当初の目的のひとつだったような気がする。仕組みとして検討する必要があるかもしれない。

（市）

・ 自主事業の広報について

デジタルサイネージや LINE など既に発表していたものもあるが、広報について連携できればと思うので、引き続きよろしく願いしたい。まろにえ祭りは、来場者について去年が 5165 名、今年が 5,863 名になったとのこと。肌感覚ではもっと来ていたような印象がある。倍とまでいかなかった、1.5 倍ぐらいの人が来ていたような感覚があった。たぶん今年はキッチンカーも出店し、来場者は増えるだろうと思っていたが、反面、若干心配事もあった。道路に自転車をはみ出ないか、外でマナーの悪い人が芝生に座り込んで食べることをしないかなど。これらも全くなかったのは、本当にうまくオペレーションしていただいた成果だと思う。ありがとうございました。

（指定管理者）

館内にゴミ箱を置く旨、インスタグラム等の SNS で事前に PR した。普段はゴミ箱を設置していないが、全部のゴミをここに集めるということを周知した。ちょっとした仕掛けとしてやってみたが、これも効果があったと感じる。周辺でポイ捨てしちゃう人等はいなかった印象。特に多くの来場者がいる印象を受けたポイントとして、滞留時間があげられる。短時間で帰る方も 1 カウントだが、滞在時間の長い方も

1 カウント。賑わいのために、どうすれば、長く滞在していただけるのだろうと考えると、やはり、飲食ではないかと思った。キッチンカーのアイデアも前回、3 月の利用者懇談会でご意見を出していただき、これだと思ってすぐに動いたところ、商工会の方がキッチンカーもブースもいっぱい出すと仰っていたので、一階を全部休憩スペースにしてはどうかと考えた。

結果、ずっと皆様がその場所で飲み物を飲みながら、かき氷を食べながら、ご歓談する風景がとても賑わいがあるものだと感じた。いつもは捨てられないが、ゴミ箱に捨ててまた次のブースに行けるという流れができたと思う。ゴミもスタッフが何回転か交換したが、皆さん非常にマナーよく使っていただいたと感じる。皆さんのご協力のおかげと感謝したい。

(市)

8 月の夏休みの自由研究講座について、毎年少しずつ内容を変えているのか。実施済みが 2 件あり、へびの抜け殻バッジ作りと野草のアートフレーム作り。前者は 1 年生～4 年生を対象とし親子 10 組 20 名の参加とのこと。後者は 3 年生から 6 年生を対象で子供のみ 6 名の参加とある。集客に関してはどうだったのか。

(指定管理者)

へびの抜け殻バッジ作りは人気の講座となり早い時期に定員となり、10 組 20 名が参加された。中にはへび自体が苦手な保護者もいたが、参加された子供達はへびにとっても興味津々だった。

野草のアートフレームには、6 名と参加人数は少なかったが、いずれの子供も黙々と作業をしていた。

(市)

講座を実施している多摩六都科学館に行った際に担当者のお話を伺うことができた。野草集めやハーブを集めるなど、大人向けに草花を扱う講座がすごく人気らしい。倍率は 20 倍ぐらいになることもあるという。今回、小学校 3 年生から 6 年生で 6 名だった。この違いは何なのかなと感じる。

(指定管理者)

少し寂しく感じたかもしれない。ただ、それぞれの参加者は野草のアートフレーム制作に対して無言で黙々と取り組まれている姿がとても印象的だった。先生との齟齬もあったためか 1,000 円の参加費が高い印象があったかもしれない。今後はフレームを 2 個作成できることをもっと PR する等、工夫したい。制作時間がなくなった子供は、キットを家に持ち帰っていた。

(市)

LINE などの SNS でアピールするのであれば、完成品画像を掲載し、イメージさせるのが良いかもしれない。広報紙面では文字中心となるため。

(指定管理者)

承知した。市の LINE のお話が出たので、少し補足させていただきたい。先ほどの生涯学習のインクルーシブ講座の e スポーツについて、集客に苦戦していた。市の方にご相談したところ、広報の LINE に載せていただけることになった。掲載後の数時間後には「LINE で見たのですが。」との問い合わせがあった。e スポーツという、一見するととっつきにくく感じるものも、市が公式 LINE で出しているということで、すぐにお母様から連絡があった。生涯学習センターが宣伝しているものを子供が持ってきてというより、お母様が LINE を見て「子供がやりたいと言ったから申し込みました。」のように新たな申込の流れができたようだった。

(会長)

やっぱり対象は子供に偏るのか。

(指定管理者)

なぜか小学生で揃ってしまった。参加した子供に「お互い知り合いなのか。」と聞いたが、お互い全く知らないらしい。それもなぜか 5 年生が多かった。また、当センターでインターンシップ参加中の 20 歳前後の女性や課長にも参加いただいた。とても盛況で、「このピッチャー打てたら世界大会行けるよ。」や「女子が打ち返していても、世界大会行けるよね。」、「女子予選にエントリーしよう。」などの声もあった。講師の教え方がうまかったのか、皆さんがすぐに理解されていることに驚いた。

ピッチング練習では、ストレートやカーブの投げ方を学び、「実際に対戦するのが面白かった。」という声があった。短時間に基本の習得をして、知らない人と対戦をして、これが世界にもつながる説明を受け、レギュレーションやコナミさんからいただいた「世界大会の道」のような内容を紹介して、「今からやっていくと、9 月のエントリーに間に合います。」と、ご案内した。大人の参加者にもやってほしかった。

(会長)

観覧したい人もいるのでは。

(指定管理者)

e スポーツでは参加者はもちろん、見る楽しみもある。今回、小学三年生以下の参加者の場合、保護者同伴の案内がされており、参加者のお父さんが見学に来ていただいた。世界大会は、ネットで動画配信され、観戦者も多い。もしかしたら東久留米の人が映っているかもしれないことを想像しながら、楽しい講座となった。

(会長)

来年に向けては、年齢層を広げ、観覧者の受け入れやホールの大画面投影もありかもしれない。

(指定管理者)

大画面で自分のキャラクターが動いたら面白いだろうなって思う。実際はこちらの集会学習室 1・2 番の部屋でやったが、暗闇でゲームをするという生涯学習センターではなかなか見られないサイバーな光景だった。

(利用者代表)

私、オセロゲームの世界大戦のようなものを、たまにやるが、すごく面白かった。名前はスポーツって感じではないが、特に年齢重ねた人が、指先の運動としてはいいと思う。

(指定管理者)

講師に「この講座の世界大会で何歳代の人が多く出場しているのか。」って聞いてみたところ、50 歳代も多いとのことだった。長くやっている方も多い印象であった。実際、参加者の感想で「世界大会に出たい。」と書いてくれた子供がいて、頑張っしてほしいなと思った。

(副会長)

先ほどから感動しながら聞かせてもらっている。まろにえ祭りは長い歴史を重ねてきた中で、確実に人も増えてきており、毎年ここで開催していることで、いろいろな人たちの心に残り、また来ようと思っただき、来場者が増えてきた歴史の蓄積みたいなものを感じる。まろにえ祭り自体の歴史にスポットをあてた展示なども良いのではと思う。新たな企画も、もちろん大事で、目がいきがちであるが、既にあるものの中で、感動や考えとか深みとか、いろいろなことを考えるきっかけになったということをお示しするだけでも、来られた方にはすごくプラスになるのではないかなと思う。それだけすごいことをされていると改めて今日感じたが、いかがか。

(指定管理者)

これだけ定着してきたものを、新鮮味もありつつ、伝統も大事にいかにもブラッシュアップできるかが大事だと考える。人数が増えていくのは確かにすごく嬉しいしありがたいが、第 1 回目のあの感じを振り返ることも大事だと思う。1 回目のチラシは、まだセンターに残っている。あの時、この震災があってもがくような感じで、何かしらこの東久米でできないかって言って立ち上がったのが、まろにえ祭りなので、これはいつまでやるのかと言われたこともあるが、やっぱりその背景を大事にしたいなと思う。何年か前に、今まで開催したまろにえ祭りという写真を展示したこともあったが、残っている過去のまろにえ祭りのチラシの展示も面白いと思う。

(副会長)

また、参加された人の声がかなり良いと思う。訴えてくるものがあると、活気が出てくる。

(指定管理者)

利用者代表の方と一緒に展示を拝見し、ふたりで泣いていた。

(利用者代表)

このような何気ない日常のものであるからこそ、本当にそれが失われて、津波にさらわれて、戻ってきたものっていう強く、強く感じるものがあった。

(指定管理者)

私は展示させていただいたとき、実際にものを触っているので、ざらついた婚礼写真など余計に強く感じますが、見た方にもやはり伝わっているようだった。たぶん、この持ち主はもうこの世にはいないのかもしれないが、対比として自分がいかにこれから生きていく上でどうしたら良いのか、物のリアリティというかいろいろ考えた学びの場であった。

(副会長)

ダブルダッチ講座に 5 年連続で来ている子供がいるという話あったが、すごくいい話だなと思う。なぜ、そこまでその子が続けて来るのだろうかというのがすごく気になった。やっている内容が変わるのか。同じことをしているためか。

(指定管理者)

低学年クラスと高学年クラスがあって、低学年クラスを卒業し、今回、5年生だったが、その子供は、体調不良で、1日目に來ることができなかった。でも、今までずっと参加しているから、どうしても参加したいという希望があった。熱が下がっていれば参加してもいいよと先生が言ってくれて、発表に参加することができた。これで5年目ですと、とても楽しかったようだ。ダブルダッチに参加していただいた方の中には、武蔵村山の教室に通い始めた方もいる。「久々に楽しかった。」、「動いたから楽しい。」など、そういう声があった。ここまで来たら6年生までやりたいという気持ちはすごくわかる気がする。

(副会長)

小さい時に自分の好きなものとか、ワクワクするものをできるだけたくさん持つことが、将来の職業選択や仕事、趣味などをやろうとする際に小さいときの体験というのはすごく影響が大きいと思う。

生涯学習の原点、コンセプトがそこにあるのかもしれない。この子は何かを見つけようとしている。それはその子のこれからの人生の中でも、このように飛び込んで見つけていけるのではないかな。内容だけではなく生き方の提示のようなこともされているような気がする。1回しか来ない子供や大人もいるが、生涯学習の意味はある。サークルでのつながりを広げていく中で、芸術や趣味を生かすことも大事であり、自分のためになっているが、自分たちが日々活動していることがその他の人へ広がっていく、影響を与える成就感があるのではないかなと思う。サークルフェスタはそのような機会になっているように感じる。

一つ一つに何かそのような意味合いがあるっていうことをキャッチフレーズや最初の見出しとして、表現することでこちらの意図が伝わりやすくなるのではないかな。

(指定管理者)

利用者代表にご存じであればサークルフェスタのテーマ決めの際の経緯について伺いたい。

(利用者代表)

テーマ決めの時は参加できていないのでわかりかねる。

(指定管理者)

こんな短時間でよくこのテーマにいきついたなって思ったので伺った。また今年も第三回のテーマ決めをすると思うが、参加者が主体的に決めていただくことに意味があると思うので、よろしく願いたい。

6. 自由討論

意見・感想・報告

(利用者代表)

報告を聞いていると総じて利用件数が減っているような気がするがいかがか。

(指定管理者)

ここ何年か周辺施設の大規模改修工事や指定管理者の変更などの諸事情で当施設を利用されていた方が本来の施設に戻ったように感じる。スポーツセンター利用者のように新たに登録されるケースもあるが、結果として減っているかもしれない。

(利用者代表)

集会学習室をはじめ抽選結果なかなか希望の部屋が予約できないことも影響していると感じる。例えば、集会学習室1・2であるが、実質、集会学習室1は使用できない状況であり、競争率を高める要因になっていると思うがいかがか。これを両室とも使用できるようにすることによって利用件数は上がると思う。但し、修復するに当たっては集会学習室1と2の間を固定的に仕切るのではなく、従来のように、

①1と2の部屋を単独利用出来る ②1と2を連結して利用できるように修復する必要がある。

(元々、多目的に利用出来ることを目的に造られた。)

(利用者代表)

駐車場について、第三駐車場が半減し全体的なキャパシティが減り、駐車できないことも増えた。市内各所から当施設に來館される際に自動車利用が便利であり、需要も多い。各地区センターも少ないが、メインとなる当センターの駐車場対策をお願いしたい。

(市)

現段階で詳細についてお知らせできないが、来年4月以降には駐車場対策をして不便な面を解消したいと考えている。

(利用者代表)

夜間の利用者需要については昼間に比べると需要が少なくなっているようだ。昔は PTA や学童の保護者など夜間利用する組織があったが、現在はその組織自体が無くなっている。それでも夜間利用の需要はあると思うので、そういった需要を発掘していくべきだと思う。

(利用者代表)

文化祭期間が近づいているが、パネルの問題があると思っている。古いものは老朽化し、部品が外れるなど利用者や観覧者にとって安全面でも心配である。パネル自体の汚れも目立ち、せっかくの展示作品の見栄えもよくない。穴あきの新たに入ったものはきれいだが、重くて利用者にとって扱いづらい。全体的にパネルの種類も多く扱いづらい。統一感をもたせ、ある程度同一種類で統一できないものだろうか。老朽化が著しい旧パネル 23 枚を可及的速やかに、新パネルに入れ替えることが必要である。

(市)

パネルについては、金額面の問題もあり、毎年少しずつ追加発注してきている現状である。パネル庫についてもキャパシティがいっぱいの状態である。

(指定管理者)

コミュニティコーピング（社会的処方）というゲームについてご案内させて頂きたい。来年度の事業で実施したいと考えている。1 年が 1 ターンで 10 年行う設定です。社会の困りごとに対していかに処方していけるかというゲームになる。私自身も非常に感動したゲーム。隣の部屋にデモ版を用意しているのでご覧いただければと思う。

■項目別記述

[1]．利用実績からの課題

月曜日と夜間の利用者数の低調がまだまだある。利用拡大のための促進策が必要。

[2]．自主事業「まろにえサークルフェスタ」について

1 回目に比べ参加者意識の変容があり、主体性が出てきた。出展者や出演者と直接コミュニケーションがとれたのは好評であった。広報に関しては、12 月スタートのように少し早めのアプローチが必要。

[3]．自主事業「まろにえ祭り 2025」について

40 周年記念事業として実施。復興支援チャリティイベントとして福島県特別版として福島県の後援を獲得。「語り継ぐともにつながるまちへ」のキャッチフレーズで開催された。パフォーマンスはホールの舞台にて実施され、ロビーは飲食を中心としたコミュニティスペースとなった。5 台のキッチンカーも招聘、過去にない賑わいを生み出し大盛況となった。これだけの集客があるのに義援金について少ない印象がある。出展者側の仕組みとして募金制度が構築できないか検討すべき。

[4]．SNS を利用した集客課題

市の公式 LINE やデジタルサイネージなど利用できるものは積極的に利用すべき。公式 LINE のお墨付きの力をもっと活用すべき。

[5]．子供の頃にワクワクした経験を大切に

ダブルダッチの講座で 5 年連続参加している子供がいたことを例に、子どもの頃、何か打ち込めるものを見つけられるようなワクワクできるようなものをたくさん持つことは、大人になった際の考え方に影響する。ある意味、生涯学習のコンセプトのひとつかもしれない。

[6]．利用件数の減少について

ここ数年、周辺施設の大規模改修工事や指定管理者の変更による事情などが要因で一時的に当センターの利用者が増えていた事実があるが、最近になって工事が終了する等、本来の利用施設に戻っていったことが要因としてあるのかもしれない。

[7]．今後の課題

・駐車場問題

市民をはじめ各所から来館されるためには自動車利用が便利であるが、第 3 駐車場の駐車可能台数が半減し、全般的に駐車可能台数が不足している。市としては来年度 4 月以降に解消に向けた取り組みを予定。

・パネルの老朽化等

老朽化したパネルは危険であり、出展者や観覧者にとって安全面からも利用しない方がよいのでは。

パネル種類の統一や見栄えも含めて要検討。

・集会学習室 1・2 の有効活用

現状、パーティション（2 部屋を分ける仕切り板）が故障のためカーテン仕切りしているが、実質集会学習室 1 が利用できない状態である。予約抽選の競争率を高める原因になっている可能性があるため要改善。

7. 事務連絡（副施設長）

次回令和 7 年度第 2 回利用者懇談会は 2～3 月頃を予定。

8. 閉会（会長）

委員の皆様のご協力により本日の予定を無事終了することができた。

これにて、令和 7 年度第 1 回利用者懇談会を散会とする。

以上